

月、太陽のトランジット

月と太陽は文字通りの意味で自分自身を表します。

月は2日と6時間で星座を移動していくため、日々の生活における変化を表します。

非常に少しの時間で次々と変化していきます。太陽は1ヶ月で一つの星座を移動するため、月ごとの変化に対応していますが一年の中での季節の変化などをよく表します。

太陽も月も期間が違っただけで基本的には自分自身を表しており、月や太陽がトランジットするハウスのテーマを経験することになります。例えば上述の小室哲也の事例では結婚した日に太陽は7室の蠍座をトランジットしていました。つまり、自分自身が結婚のテーマを経験していたということです。

そして、月に関しても同じように考えることが出来ます。ラオ先生の鑑定事例で時刻修正やラグナの特定をする際に結婚した時の月の位置が7室に在住しているかどうかで判断したケースがあったようです。

月は自分自身を表すので、月がトランジットしている時のハウスのテーマを人は経験することになります。だから月が4室をトランジットしていたら、家の中でおとなしくプライベートを満喫していたり、建物内でゆっくりしている時期かもしれません。あるいは月が9室をトランジットしていたら、少し遠出をして学問的、精神的な交流をするために先生に会いに行ったりするかもしれません。あるいは旅行に行って自由を満喫するかもしれません。月が12室をトランジットしていたら、その日は全く脇役で誰とも話さなかったり、隅にいて隠遁的な状況の中で静かにしていたかもしれません。

あるいは月が10室をトランジットしていたら、その日は注目を浴びて仕事が忙しく自分自身の重要度が増した日かもしれません。